《信州大学附属図書館・塩尻市立図書館連携事業》

—企画展— 時代小説作家と挿絵画家・石井鶴三

会期：2012 年 10 月 30 日～ 11 月 25 日
会場：塩尻市立図書館「えんぱーく」展示コーナー
主催・共催：信州大学附属図書館・塩尻市立図書館
監修：松本和也（信州大学人文学部）

彫刻・版画など幅広い分野で活躍した芸術家、石井鶴三は、『大菩薩峠』(中里介山)や『宮本武蔵』(吉川英治)といった 新聞小説の挿絵画家としても多くの作品を残しています。今回は、2010年に信州大学へ寄贈された「石井鶴三関連資料」の中から、鶴三と作家との交流が窺える「時代小説」にまつわる 貴重な書簡10点を、関連する作品とともに展示します。吉川英治、直木三十五、尾崎士郎ら著名な作家から鶴三に宛てた、挿絵の依頼状などを是非ご鑑賞ください。

〈 展 示 書 簡 リ ス ト 〉

No.	差出人	受取人	発信年月日	仮番号（信大整理用）
1	吉川 英治	石井 鶴三	1937 年 9 月 3 日	書 13 ― 108
2	吉川 英治	石井 鶴三	1939 年 7 月 5 日	高 1 ― 42
3	吉川 英治	石井 鶴三	1948 年 3 月 2 日	書 4 ― 1057
4	直木三十五	石井 鶴三	1930 年（月日未詳）	高 1 ― 35
5	直木三十五	石井 鶴三	1930 年 7 月 30 日	書 1 ― 188
6	尾崎 士郎	石井 鶴三	1942 年 12 月 23 日	書 7 ― 535
7	海音寺潮五郎	石井 鶴三	1953 年 4 月 27 日	書 13 ― 107
8	和田 芳恵	石井 鶴三	1949 年 9 月 4 日	書 4 ― 969
9	村松 梢風	石井 鶴三	1935 年 12 月 13 日	書 4 ― 812
10	森田 草平	石井 鶴三	1930 年 5 月 16 日	書 6 ― 41

〈 石 井 鶴 三（いしい・つるぞう）〉

明治20・6・5～昭和48・3・17(1887～1973)彫刻家、画家。東京府下谷区に画家石井鼎湖の三男として生れた。長兄は画家石井柏亭。明治31年、船橋の薪炭商矢橋家の養子となったが、37年、石井家にもどり、小山正太郎の不同舎で素描を、加藤景雲に木彫を学んだ。38年、東京美術学校彫刻科選科に入学し、翌年、「東京パック」に入って漫画を描いた。在校中、荻原守衛の『文覚』に感動し、推古仏や埴輪に彫刻美を感得した。43年に卒業し、翌年の第5回文展で『荒川岳』(女体石膏像)が褒状を受け、新進彫刻家として注目された。大正5年、日本美術院同人に推され、昭和19年、東京美術学校教授となり、25年、芸術院会員となった。作品は小品が多いが、代表作『俊寛』『母古稀像』のほか、岩本素白、高浜虚子、島崎藤村ら文学者の像も作った。

画家としては大正5年、第3回二科展の『行路病者』が二科賞を受け、日本美術院洋画部を経て、11年、春陽会創立に参加し、前年、日本水彩画会会員ともなった。版画家としては、明治39年、「平旦」第3号の『虎』以来、人物造型の素描力を生かした『窟の湯』『風神』など木版画の作があり、日本版画協会会長にも推された。

一方、大正10年、上司小剣の『東京』の新聞挿画にコンテ墨筆で新生面を開き、中里介山『大菩薩峠』で挿画の第一人者と認められ、挿画にたいする世人の認識をおおいに高めた。介山とは挿画の著作権問題で争ったが、そのいきさつは『大菩薩峠』の挿画を集めた『石井鶴三挿画集』(昭9　光大社)の「自序」にくわしい。その後も直本三十五『南国太平記』、子母沢寛『国定忠治』、吉川英治『宮本武蔵』、尾崎士郎『国技館』と挿画の作は多い。

上司小剣『東京』『U新聞年代記』、久保田万太郎『春泥』、吉川英治『鳴門秘帖』、など装幀もあり、また、歌舞伎座で昭和31年に上演された室生犀星原作、円地文子脚色、福田恆存演出による『舌を噛み切った女』、37年の奥野信太郎作『秋燈記』の美術を担当したこともあり、幅広い活動をつづけた。若いころから相撲を好み、自宅に土俵を設けたほどで、相撲に取材した作品も多く、横綱審議会委員、相撲博物館長も勤めた。山岳を愛し、日本山岳会会員でもあった。著書に『石井鶴三素描集』(昭5 光大社)『春陽会随筆五人』(共著、昭15 第一書房)『宮本武蔵挿絵集』(昭18 朝日新聞社)『現代名作名画全集1石井鶴三集(宮本武蔵)』(昭29 六興出版社)がある。

〔沢木欣一執筆／『日本近代文学大事典　第一巻』講談社、昭52〕